第3回年会報告▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷▷

企業展示をお世話して

大阪大学工学部　原田　繁春

昨年7月頃，植木先生から第3回年会の開催準備を手伝って欲しいとの御依頼があり，お引き受けしたところ企業展示を担当することになりました。このような企画は日本化学会等，大きな学会の年会では恒例の行事となっていますが誕生間もない放射光学会では初めての試みでしたので，何とか成功させたいという気持で取り組みました。しかし，どのような会社に，又それぞれの会社のどなたにお願いすれば良いのかすらわからず，結局は学会誌に広告を記載して頂いている会社を中心にお願いしました。昨年の9月に案内を差し上げ，御返事を心待ちにしていましたが反応はにぶくやきもきしました。そこで電話・Faxで再度お願いした結果，予定数に達する事が出来ました。参加して頂いた会社は――アステック，石川島播磨重工，エスケイケイバキュウムエンジニアリング，大阪真空，オプトロン・東芝電興共同，神津精機，サイエンスラボラトリーズ，シャラン，信越化学，住友重機，住友特殊金属，日電アネルバ，日本真空，マックサイエンス，三菱電機，リガク――の16社でした。

展示は年会の期間中ずっとして頂きました。各社とも工夫を凝らした展示内容で，概ね成功したのではないかと思います。ミラー，シリコンの結晶，マグネット等々を目の前におきながら会社の事や大学での研究について語らい，楽しいひとときを過して頂けたのではないでしょうか。特に今まで放射光学会の会員に馴染みの薄い会社にとっては絶好のPRの機会となったようです。その結果，私自身も含め多くの学会員の皆様は今まで持っていた各企業に対するイメージを随分変えられたのではないでしょうか。

しかし，今後考えるべき点もありました。それは人の流れをもっと展示会場へ向けるという事です。ポスター会場のあふれるような熱気に比べると少し見劣りがしました。勿論年会の目的から言うと研究者同志の討論が一番大切なのですが，年会の経済的基盤をしっかりさせる為に企業展示を発展させる努力は必要だと思います。

最後に，私にとってこのような企画を担当するのは初めての経験でしたが，各方面の方々の御協力で大過なく無事責務を果たす事が出来，深く感謝いたします。そして，学会の発展を心から祈りながら筆をおきたいと思います。

(C) 1990 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research